

# 強者の戦略

こんにちは。二〇一七年が始まりました！本番も、もうすぐそこです。

右の文章は『讃岐典侍日記』の一節で、作者が亡き天皇のことを回想している箇所である。なお、作者は堀河天皇の女房として仕えた女性で、その姉は天皇の乳母を務めていた。これを読んで、後の問いに答えよ。

六月になりぬ。<sup>①</sup>暑さ所せきにも、まづ、去年のこのころは、こともなく御心地よげに遊ばせたまひて、堀川の泉、人々見んとありしを、何とおぼしめししにか、あながちにすすめつかはししかば、「おぼしめすことなれば、まづ、明日」とて、われは出でて人たち待ちしに、ふた車ばかり乗りつれて、日暮らし遊びて帰りしに、われは、今宵とまりて心やすきところにてうちやすまんと思ひて、とどまりしを、常陸殿という女房、「あな、ゆゆし。ただ参らせたまへ。『<sup>②</sup>扇引きなど人々にせざせん』」などありし。御扇どもまうけて、待ちまゐらさせたまふに」とあれば、この人たちに具して参りぬ。待ちつけて、泉の有様うちうちに問ひなどして、「扇引き、今宵は、さは」とおぼせられしかば、「明けんが心もとなさに今宵と思ふに、人たちのけしきの暗くて見えざらんこそ、くちをしくさぶらへ」と申ししかば、つとめて、<sup>③</sup>明くるやおそきとはじめさせたまひて、人たち召しすゑて、大式の三位殿をはじめてゐあはれたりしに、「まづ、引け」とおほせられしかば<sup>④</sup>引きしに、うつくしと見しをえ引きあてで、なかにわろかりしを引きあてたりしを、うへに投げおきしかば、「<sup>⑤</sup>かかるやうやある」とて、笑はせたまひたりしことを、但馬殿といふ人の、「家の子の心なるや。こと人はえせじ」など興じあはれしに、そのりは何ともおぼえざりしことさへ、いかでさはしまゐらせけるにかなめげに、今日は、<sup>⑥</sup>ありがたくおほゆる。

注 ○泉——納涼のための建物である泉殿のこと。 ○扇引き——よい扇を引き当てる遊び。

○家の子——ここでは身内のこと。

問一 傍線部(1)(2)を現代語訳せよ。

問二 傍線部(3)を、指示内容を明らかにした上で現代語訳せよ。

問三 傍線部(4)について、どうして「ありがたく」思ったのか説明せよ。

問四 波線部(a)(b)の動作主を答えよ。